

1 研究課題 思考力・判断力・表現力を高める国語科指導

～理由を明確にして書く力を伸ばす指導の工夫～

2 研究の概要

① 思考力を鍛えるために

思考力を高めるには、具体的な思考操作の学習を設定することが重要である。「比較」「分類」「根拠」の三つの操作が思考操作として適切と考え、実際には国語の授業で普通に行われていることを焦点化させて取り入れる。

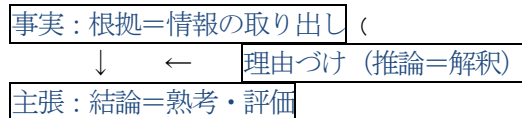
② 書く力を養うために

説明的な文章の学習や「書く」単元の中で、「書く」ための練習として以下のように設定した。

- ・型を使って書く。「～とはなんだろうか。君は～を知っているか」「なぜなら～だからだ。」等
- ・図や絵を説明する。・5W1Hを入れて書く。・根拠（事実）と理由（意味づけ）を区別して書く。

③ 重点的な取組として

何かを主張するためには説得力が求められる。説得力のある文章にするには客観的な根拠や理由を明示して自分の考えを論理的に表現することが必要となる。トゥルミンモデル（※）を単純化した下記ものを参考に、理由づけに重点を置き、繰り返し指導する。



※ イギリスの分析哲学者スティーブン・トゥルミンが提唱した議論分析のためのモデル

3 授業公開及び研究協議 平成23年11月18日（金）※県中教研指定国語科研究発表会と合同開催

授業者：上越市立直江津東中学校 木花明美 教諭
指導者：上越教育大学 教授 松本 修 様
上越教育事務所指導主事 中林郁郎 様



① 単元・題材名 事実と意見（教材名「根拠を明らかにして書こう 意見を伝える」光村図書2年）

② 題材のねらい

- ・自分の立場を明確にして意見をもつことができる。
- ・自分の思いが伝わるために自分の主張をはっきりさせ、理由を明確にした文章を書くことができる。

③ 単元の構想

書く題材を生徒の興味・関心が高い修学旅行の学級別コースとし、総合的な学習の時間と関連を図りながら行った。

まず、学級別コースを決定する前に、個人で、「どこへ行きたいのか、なぜそこへ行きたいのか」という考えをもたせ、個人の考えを基に理由を明確にして書く活動を行った。その上で、自分の考えをまとめるためのプロセスの例示を行いながら、書くことの意識付けを行い、書く内容を指定した。

さらに、書くための思考力を促し、考えを深め合うために、話し合い場面を設定した。同じ情報を共有する仲間と意見交換することで、絶えず自分の考えを見直す場面を作っていく。話し合いによって出た友達の意見を取り入れながら、理由を明確にした文章を書く活動を実践した。

④ 参観者の声

○生徒たちにとって、身近で関心が高い「修学旅行での班別行動の行先を考える」ということを取り上げたことがポイントとなっていた。書くことや自分の気持ちを伝えることが苦手だという中学生の傾向があるが、相手に納得してもらえよう、真剣に根拠と理由づけのつながりを考えていた。

○「トゥルミンモデル」の6要素のうち基本構造を作る要素を用いて、書くことの学習に生かされていて、提案性ある授業であった。

○小学校では、ペアやグループなどでアドバイスをしたり、考えを伝え合ったりする活動が多く展開される。中学校でも、同じように生徒同士で読み合ったり、評価し合ったりする活動が展開されており、小学校で学んできたことが中学校で生かされるとよいと思った。